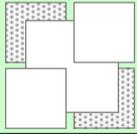


第2部 めざすべき都市像

めざすべき都市像



めざすべき都市像

基本的な考え方

水と緑と創造のまち 生き活き・さいわい

『環境共生のまちづくり』

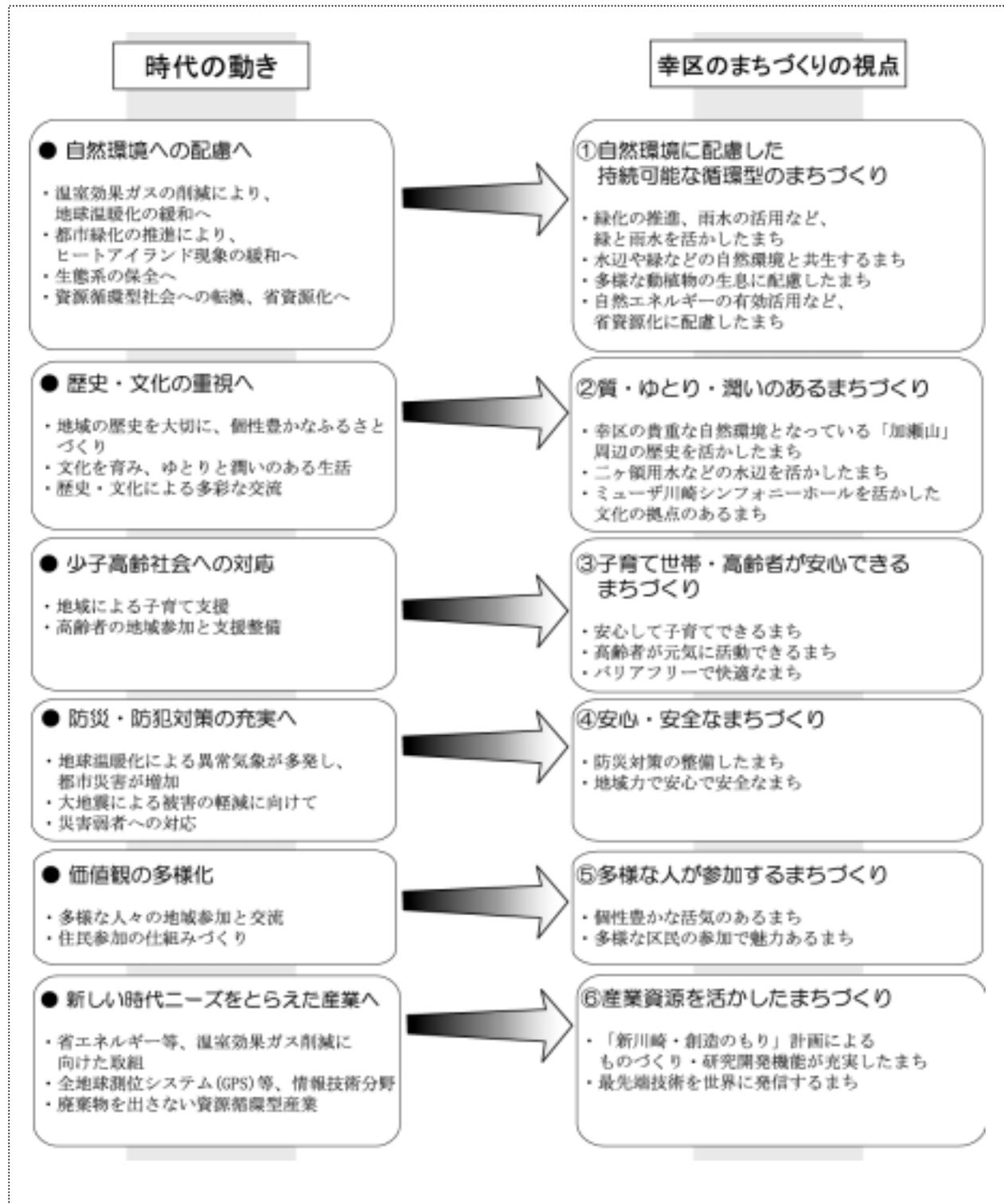
- 1 「環境と共に生きる」まちづくり
- 2 幸区の特性を活かした「地域社会と共に生きる」まちづくり
- 3 コミュニティを大切にした「人と人が共に生きる」まちづくり

『安全な生き活きまちづくり』

- 4 安全で安心して暮らせるまちづくり
- 5 多様な交流、にぎわいのあるまちづくり
- 6 新しい産業を創造するまちづくり

<背景・視点>

- ・幸区には、北に多摩川、南に鶴見川、西に矢上川が流れており、かつては、区内の低地部に水田が多く存在し、二ヶ領用水の豊かな水路網があり、身近に自然豊かな水辺が多くありました。
- ・近年では街なかの緑や水辺の減少、エネルギー資源の減少、地球温暖化やヒートアイランド現象などの地球環境の変化、地震や台風などによる自然災害の発生、少子高齢化の進行など、区民の生活を取り巻く環境は大きく変化してきています。
- ・これまでの歴史的経緯の中で育まれた人々の生活や産業、文化といった幸区の特性を大切にするとともに、現在のまちの課題を見据えた上で、これからの時代の動きをとらえることが大切になってきます。
- ・20年後のまちの姿を描く上で、次のように時代の動きをとらえ、まちづくりの視点を整理した上で、「環境共生のまちづくり」「安全な生き活きまちづくり」をめざします。



1 「環境と共に生きる」まちづくり

- ・多摩川などの河川や加瀬山の緑など、今ある自然環境資源を保全し、有効に活用するとともに、二ヶ領用水の水辺や公園・緑地、緑道の緑を充実させ、水と緑を育むまちをめざします。
- ・ヒートアイランド現象や地球温暖化などの地球環境問題に対して、環境に配慮した持続可能な循環型のまちをめざします。

2 幸区の特徴を活かした 「地域社会と共に生きる」まちづくり

- ・縄文・弥生時代からの歴史が残る加瀬山や「音楽のまち・かわさき」の拠点施設であるミュージアム川崎シンフォニーホールなどの立地を活かしたまちをめざします。
- ・地域のまちづくり活動をより活発にするため、誰もが集える生活空間があるまちをめざします。
- ・地域の中で安心して子育てができるまちをめざします。

3 コミュニティを大切にした 「人と人が共に生きる」まちづくり

- ・少子高齢社会が進行する中で、地域の活力を向上させながら、子どもから高齢者までが気軽に集える仕組みを創出し、地区コミュニティを基盤とした、人と人が共に生きるまちをめざします。

4 安全で安心して暮らせるまちづくり

- ・地区コミュニティを基盤として、まちの防災性の向上を図り、誰もが安全で安心して暮らせるまちをめざします。
- ・バリアフリーに配慮して、高齢者や障害者を始め、誰もが快適に暮らせるまちをめざします。

5 多様な交流、にぎわいのあるまちづくり

- ・地域の多様な人々の交流により、活気のあるまちをめざします。
- ・川崎駅西口周辺地区を中心に、広域的な商業や産業の拠点としての充実を図り、にぎわいのあるまちをめざします。

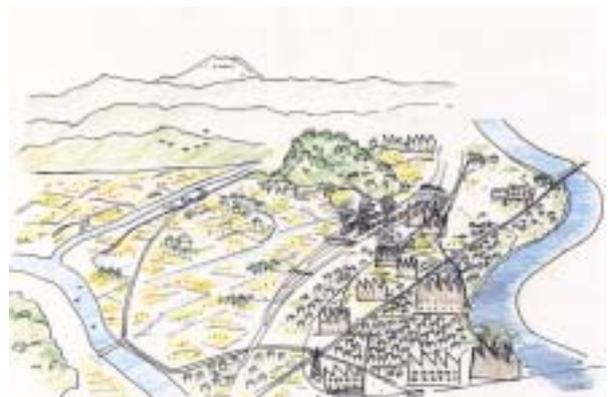
6 新しい産業を創造するまちづくり

- ・新川崎駅周辺地区の K²（ケイスクエア）タウンキャンパスや KBIC（かわさき新産業創造センター）を核に、新しいものづくり・研究開発型産業を育成し、最先端技術を世界に発信するまちをめざします。

幸区の変遷



はるか昔の幸区



高度成長期の幸区



現在の幸区